ＤＮＰ

解体しやすい液体紙容器

開封性を大幅改善　資源リサイクルに貢献

大日本印刷㈱（本社：東京、社長：北島義俊氏、以下・DNP）は、常温でのアルコール飲料の長期保存が可能な口栓付き紙容器において、廃棄の際に従来よりも容易に解体できる資源リサイクルに適した「DNP易解体液体紙容器」の新タイプを４月に発売する。

【「DNP易解体液体紙容器」の開発背景と特長】

DNPは1983年に水蒸気や酸素の透過を抑える多層バリアフィルムを開発し、パッケージの内容物の保存期間延伸などに取り組んできた。また植物由来の原料を一部に使用した包装材「バイオマテック」シリーズを提供するなど、生物多様性・持続可能性の確保に配慮した多様な包装材を開発している。

アルコール飲料向けの液体紙容器は、内容物保護の観点からバリアフィルムの紙への貼り付け強度を高めているため、リサイクルや廃棄の際の解体に手間がかかることが課題とされてきた。DNPは昨年５月に、廃棄時に容易に切り開くことができる「解体しやすいタイプ」と紙層と内装のフィルム層を簡単に剥がして分離できる「紙とフィルムを分離できるタイプ」の２種の液体紙容器を開発した。今回「解体しやすいタイプ」において、容器の天部に特殊な易開封加工を施すことにより、天部の開封性を大幅に改善することで、解体をさらに容易にした「DNP易解体液体紙容器」を開発した。従来品と比べて密封性やシール強度などに差はなく、また既設の充填機などの生産ラインで対応可能のため、設備改造や新規設備導入の必要はない。

今回大幅に向上した開封性については、人間工学的解析手法である触動作センサーで評価を行った。触動作センサーは、作業時の指腹にかかる力（接触力）や指の動き（加速度）を、指腹の感覚を阻害することなく計測できるセンサー。

DNPはパッケージ評価に特化したオリジナル解析プログラムと触動作センサーを組み合わせることで、使いやすさに影響を与えている要因を数値データによって特定し、使用行動のどの部分に問題があるのかを明らかにしパッケージの開発、改善を進めている。

「DNP易解体液体紙容器」の評価にも同手法を適用し、容器の天部の開封にかかるエネルギーを計測したところ、易開封加工を施した本開発品は、従来品より60%少ない力で開封ができ、牛乳パックとほぼ同等の力で開封できることが確認できた。

触動作センサー(HapLog)

DNPオリジナル専用解析ソフトウェア

次代を拓く最新技術

キヤノンＭＪ

セキュリティー対策強化

「ITセキュリティポータルサイト」公開

キヤノンマーケティングジャパン㈱（代表取締役社長：坂田正弘氏、以下・キヤノMJ）は、小企業から大企業までを対象に業種、業態にあわせたトータルセキュリティーソリューションを展開中で、近年、巧妙化・多様化する標的型攻撃やIoT機器からのサイバー攻撃などに対応するサポートを行っているが、セキュリティー事業の強化に伴い、キヤノンMJグループが発信するセキュリティー対策に役立つ情報を集約した「ITセキュリティポータルサイト」を２月28日より公開した。

昨今、特定の企業や業種を狙い金銭や重要情報の不正取得を行う標的型攻撃やWebページの改ざん、IoT関連機器を狙い企業のサービスを停止させるDDoS攻撃など、サイバー攻撃が巧妙、かつ多様化している。

2016年はIoT機器を狙うウイルス「ミライ」が世界中で猛威を振るい、日本国内でもサイバー攻撃関連の通信は1281億件（※）と過去最高になった。IoTやクラウドなどの普及に伴い、経営課題として情報セキュリティー対策の必要性を認識する企業が増加する一方、中堅や中小企業では何からセキュリティー対策に手をつけるべきか悩んでいる企業も多々ある。

今回公開する「ITセキュリティポータル」では、今まで培ってきたセキュリティー対策のノウハウや最新の情報をわかりやすく解説した。全国各地で開催するセキュリティー関連のイベントやセミナー、キャンペーン情報に加え、キヤノンITSの「マルウエア情報局」が独自に収集した最新のセキュリティー情報を随時提供する。

今後は、最新の技術や、企業規模別、業種別のソリューションの提案を含め、顧客にとって役に立つセキュリティー情報を配信していく。

（※）報通信研究機構（NICT）による調査結果

ローランドＤＧ

カッティング精度大幅に向上

大型カッティングマシン３機種

業務用インクジェットプリンターを製造・販売するローランドディージー㈱は、「キャムワン」ブランドの新製品として、大型カッティングマシン、GR―640／540／420の３機種を世界同時発表した。同機はプロフェッショナルに求められるカッティング品質と生産性を追求した最新モデル。

マシンの性能を決定づけるボディには、本体とスタンドを一体設計した「L字型デザイン」を採用することで剛性を追求。カッティングキャリッジやカッターホルダーなど主要部の構造も一新し、カッティング精度を大幅に向上させた。高剛性のボディは、マシンのポテンシャルを最大限に引き出し、最高毎秒1485㍉のカッティングスピード（注１）と最大600gfのカット圧を達成。優れたパフォーマンスで、妥協を許さないプロのカッティングビジネスをサポートする。

GR―640／540／420にはまた、シートを押さえる圧力を10段階で調整できる電動ピンチローラーを新搭載。シートの厚さや素材に応じて最適な圧力を選択することができ、薄手のカーフィルムから厚手のサンドブラスト用シートまで、搬送跡を付けることなくスムーズに搬送する。

さらに台紙付ステッカーの製作やパッケージの試作に有用なミシン目カット、厚手の素材を確実にカットするための重ね切りやオーバーカットなど、さまざまなカッティング機能も搭載し、顧客のビジネスの可能性を広げる。

同社のカッティングマシンは、広告・看板を製作するサイン業界を中心に世界中のプロフェッショナルユーザーに広く受け入れられ、初号機を発売した1988年からの累計販売台数は44万台を突破している（注２）。

同社ではカッティング技術の粋を結集し、品質と生産性、幅広い素材への対応力を極めたGRシリーズが、顧客の業務の付加価値向上とアプリケーション提案力の拡大に貢献し、カッティングビジネスに新風を吹き込むとしている。

（注１）ハイスピード時45°方向。

（注２）2016年12月末時点。

【主な特長】

(1)最高毎秒1485㍉のカッティングスピードと高いカッティング品質

本体とスタンドを一体化したL字型デザインを採用し、ボディ剛性を向上。高剛性設計に加え、カッティングキャリッジとカッターホルダーの構造を刷新することで、最高毎秒1485㍉のカッティングスピード（※）と高いカッティング品質を両立した。最大600gfのカット圧で、厚手の素材も美しく仕上げる。

（※）ハイスピード時45°方向。

(2)多様な素材や用途に対応

塩ビシートをはじめ、ウィンドウフィルム、カーフィルム、熱転写シート、サンドブラスト用のマスキングシート、反射シートなどに対応。フィルムやシートの厚みや材質に合わせて、圧力を10段階で調整できる電動ピンチローラーを搭載し、薄手のフィルムから厚手のシートまでスムーズに搬送する。

台紙付ステッカーの製作やパッケージの試作に有用なミシン目カットや、厚手の素材を確実にカットするための重ね切りやオーバーカットなど、さまざまなカッティング機能を搭載し、カッティングビジネスの可能性を広げる。

(3)カッティング業務を効率化する専用ソフトウェアを標準付属

カットデータの作成・編集が簡単に行える「Roland CutStudio（ローランド・カットスタジオ）」の機能を強化。カット線データの色分け機能や、進化した分割出力機能に加え、不要部分の除去を容易にする作図機能を新搭載し、後工程を含めたカッティング業務全体のさらなる効率化が可能になった。

また、Adobe IllustratorやCorelDRAWと連携し、WindowsやmacOSの両方に対応する専用プラグインも標準で付属する。

標準価格は100万円、85万円、70万円（いずれも税抜き、運送・設置費別）。販売目標台数は１年間で国内・海外合計3000台。

【主な仕様】

製品名＝GR―640／GR―540／GR―420

インチサイズ＝64㌅／54㌅／42㌅

最大カッティング領域＝1651㍉（幅）×25㍍（長さ）／1397㍉（幅）×25㍍（長さ）／1075㍉（幅）×25㍍（長さ）

最大カッティング速度＝1050㍉／秒（SCAN、FEED方向）、1485㍉／秒（ハイスピード時45°方向）

外形寸法／重量＝①2165㍉（幅）×740㍉（奥行）×1190㍉（高さ）／93.5㌔②1910㍉（幅）×740㍉（奥行）×1190㍉（高さ）／87㌔／③1650㍉（幅）×740㍉（奥行）×1190㍉（高さ）／78㌔。

人事異動

★神奈川新聞社　4月1日付

◇機構改革　①コミュニケーション局を廃止②デジタルビジネス局を新設し、デジタルビジネス部を置く③地域連携局を新設し、CSR事業部、読者相談室を置く④経営企画室を経営企画局とし経営企画部、社長室を置く⑤経営管理局を総務局と改称。

◇人事

地域連携担当（コミュニケーション担当）常務、販売・印刷・関連会社担当：倉田昭人

統合編集局長（コミュニケーション局長兼お客様相談室長）角田照司▽統合編集局次長兼報道部長：鈴木達也▽編集局総務部長兼務　編集局次長兼紙面研究室長：石曽根剛▽デジタルビジネス局長（統合編集局システム担当）（統合編集局編集総務部長）青木晋▽デジタルビジネス局次長（コミュニケーション局次長）吉田一弘▽デジタルビジネス局デジタルビジネス部長（コミュニケーション局デジタルサービス室長）森俊行▽地域連携局長兼読者相談室長（統合編集局長）藤塚正人▽地域連携局次長兼CSR事業部長兼経営企画局長（コミュニケーション局次長）坂本光章▽管理・配送部長（クロスメディア営業局企画推進室担当部長）（コミュニケーション局次長兼経営企画局企画委員（コミュニケーション局次長兼お客様ふれあい室長兼経営企画室経営企画委員）鎗分達文▽地域連携局CSR事業部担当部長、コミュニケーション局担当部長兼務を解く

◇神奈川新聞社　4月1日付

◇機構改革　①コミュニケーション局を廃止②デジタルビジネス局を新設し、デジタルビジネス部を置く③地域連携局を新設し、CSR事業部、読者相談室を置く④経営企画室を経営企画局とし経営企画部、社長室を置く⑤経営管理局を総務局と改称。

◇人事

地域連携担当（コミュニケーション担当）常務、販売・印刷・関連会社担当：倉田昭人

統合編集局長（コミュニケーション局長兼お客様相談室長）角田照司▽統合編集局次長兼報道部長：鈴木達也▽編集局総務部長兼務　編集局次長兼紙面研究室長：石曽根剛▽デジタルビジネス局長（統合編集局システム担当）（統合編集局編集総務部長）青木晋▽デジタルビジネス局次長（コミュニケーション局次長）吉田一弘▽デジタルビジネス局デジタルビジネス部長（コミュニケーション局デジタルサービス室長）森俊行▽地域連携局長兼読者相談室長（統合編集局長）藤塚正人▽地域連携局次長兼CSR事業部長兼経営企画局長（コミュニケーション局次長兼お客様ふれあい室長兼経営企画室経営企画委員）鎗分達文▽地域連携局CSR事業部担当部長（クロスメディア営業局企画推進室担当部長）坂本光章▽管理・配送部長、コミュニケーション局担当部長兼務を解く

◇人事

統括次長・局長待遇（編集局次長兼報道本部長・論説副委員長）松元剛▽局次長（印刷局次長待遇）玉城章▽販売第１部長（文化事業推進部長）局次長待遇：辺土名朝喜▽読者事業部長（中部支社販売第２部長・局付部長）田港朝之▽文化事業推進部長（営業局事業開発部部長待遇）仲原崇夫▽管理部長兼出版部長（読者事業部長）局次長待遇：名嘉真朝英

◇印刷局▽

統括次長・局長待遇（総務局統括次長兼総務部長）佐々木荘子▽販売第４部主任担当部長・埼玉中部（首都圏第４部・主任担当部長・千葉西部）芦澤宣彦▽パブリックエディター事務局（首都圏第４部主任担当部長・千葉西部）平松遥▽販売第３部次長（首都圏第４部次長）前尾匠充▽販売第４部次長（首都圏第４部主任担当部長・埼玉中部）萩原竜太▽大阪本社・近畿圏第１部・大阪府南部（首都圏第４部・埼玉西部助務）大久保花子▽顧客開発プロモーション部次長（東日本第１部次長）平嶋崇史▽販売第５部次長（東日本第１部統括主任担当部長・群馬）佐藤光雄▽販売第２